

都市スポーツインフラ

～地域の活性化計画～

No1



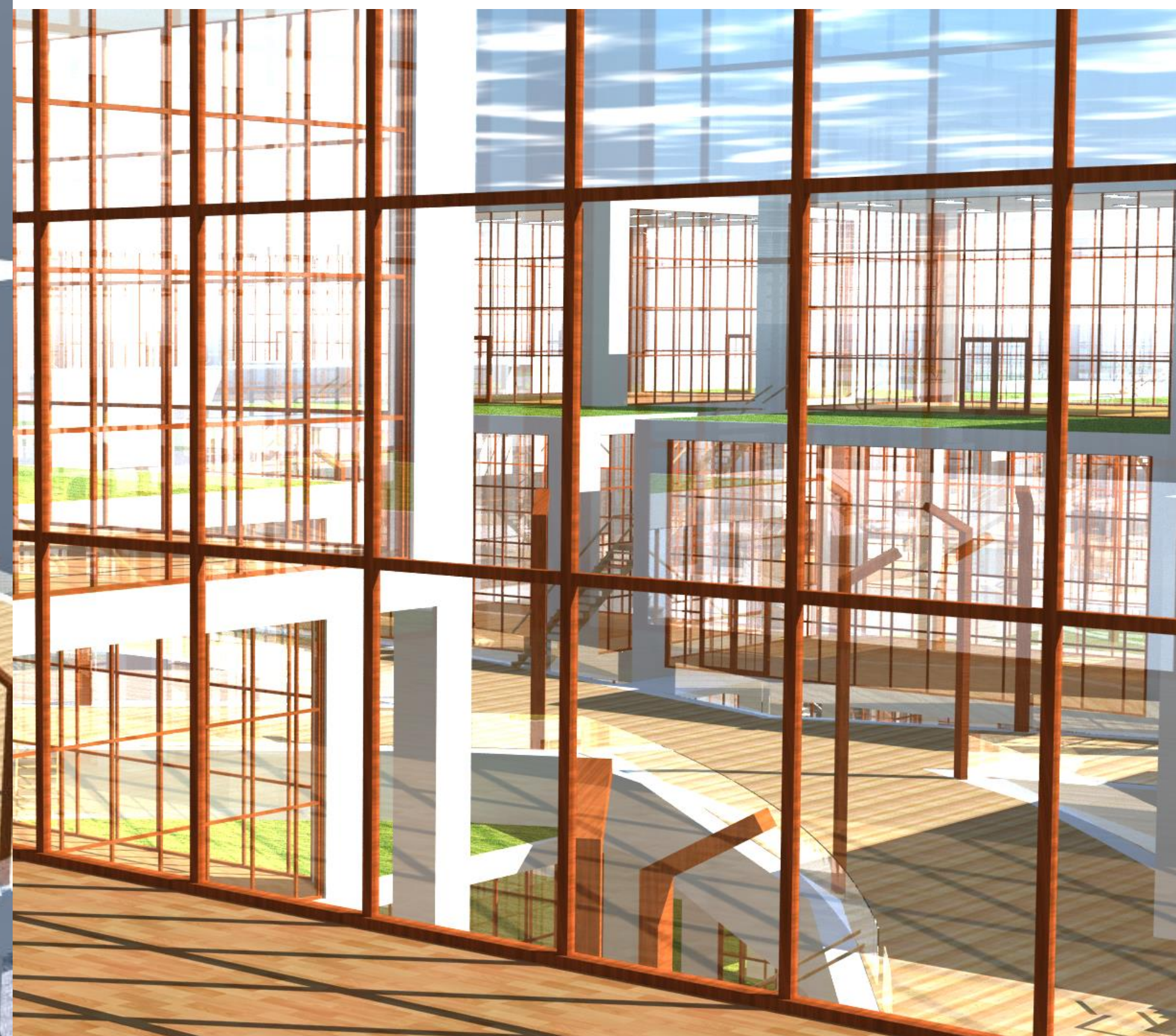
都市スポーツインフラ

No2



■背景

今後の長寿社会における快適な生活条件の一つとして市民の「健康」があり、「健康」に関わるスポーツ環境の整備が重要と考える。スポーツは、あくまでも個人的努力で行うこととされてきたが、縮減社会、長寿命化を前提に、都市環境の中に組み込むことによって、市民により親しみやすいものになり得ると考える。スポーツ関係の施設は、主に郊外に点在的に配置され、非日常的な特別な存在として捉えられているが、日常的な身近なものとして位置付けることが必要である。



■計画目的

少子高齢化社会や国民の運動不足、体力低下に関わる「健康」の問題とともに、地方都市共通の問題点として中心市街地や駅前の市街地の空洞化、人口流出がある。つまり、駅周辺及びその中心市街地における未利用地の有効利用対策として、郊外に配置されたスポーツ関連空間を中心市街地に整備することの有効性を考えた。ただスポーツ環境を整え、空洞化した敷地へスポーツ空間を点在させるだけでなく、既存建物の屋上も未利用地と捉える。それにより、スポーツ空間を設けることで既存の施設との連携も考慮し、周辺地区にも展開できるいわば都市のインフラとしての計画を提案することを当計画の目的とする。

■計画敷地、敷地周辺の分析

今回敷地として選定したのは、広島県福山市のJR福山駅前に位置する伏見町である。この敷地は、背景や目的などの問題を抱え、特に集積している場所である。現状は、福山市全体で生産年齢人口が市外に流出し、駅前では特に伏見町で人口の流入がみられず、人口減少が進行している。加えて、伏見町の空き店舗や駐車場、周辺の公共空間や公共施設など活用できる空間が多くあるにもかかわらず、十分利用できていない。市街地の拡大や車を利用するライフスタイルへの変化によって、駅周辺から郊外の国道沿いなどに日常の活動の場が移り、駅周辺には徒歩で楽しめる空間が少なく、郊外の店舗にはない魅力を持ったコンテンツが不足しているのが現状である。

都市スポーツインフラ

～地域の活性化計画～

■計画の基本方針

1. 形の基本形

1) メイン・運動を目的とした空間スペース

- ① 個人レベルの空間
- ② 団体用の大きな空
- ③ ランニング主体の道的な空間
- ④ 手軽に運動ができる空間

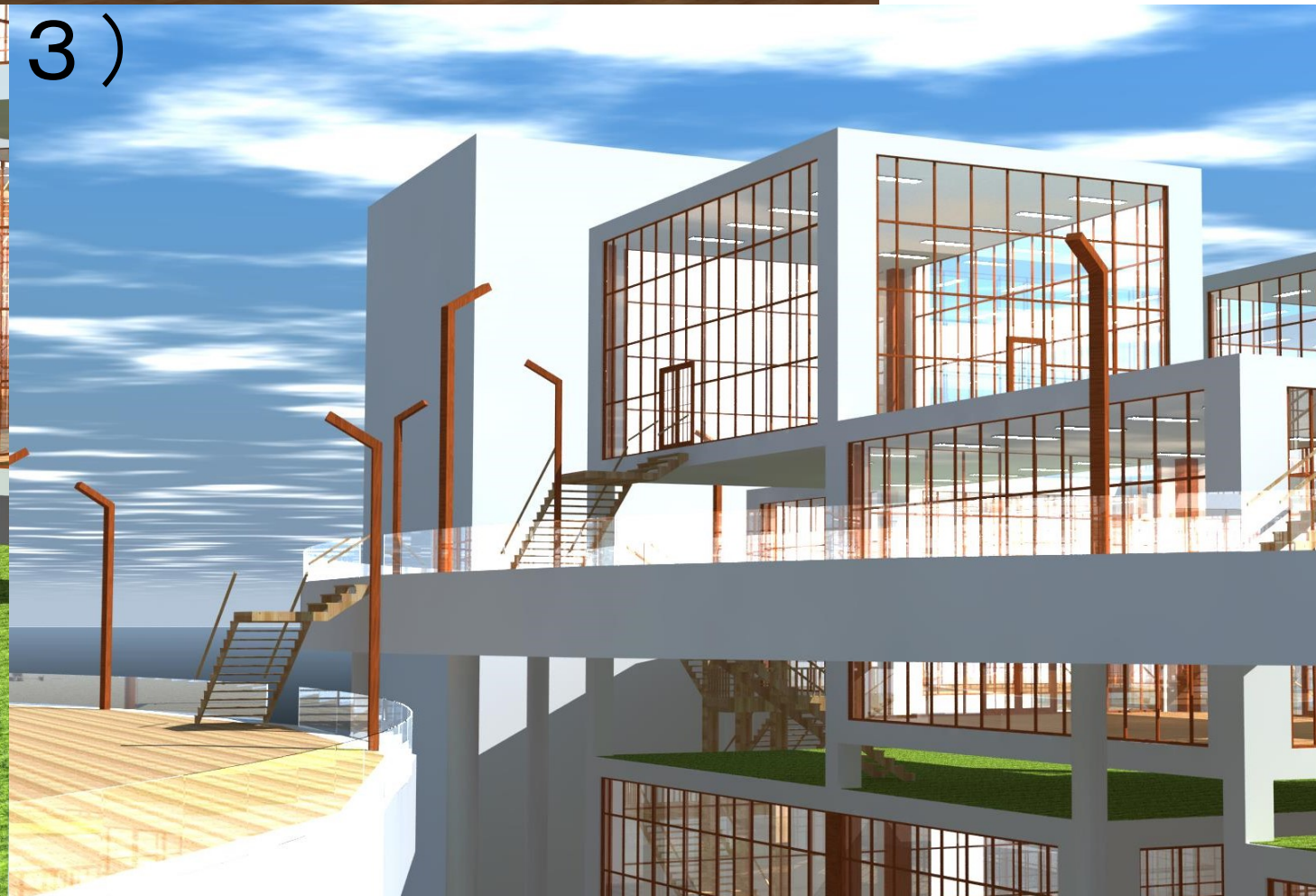
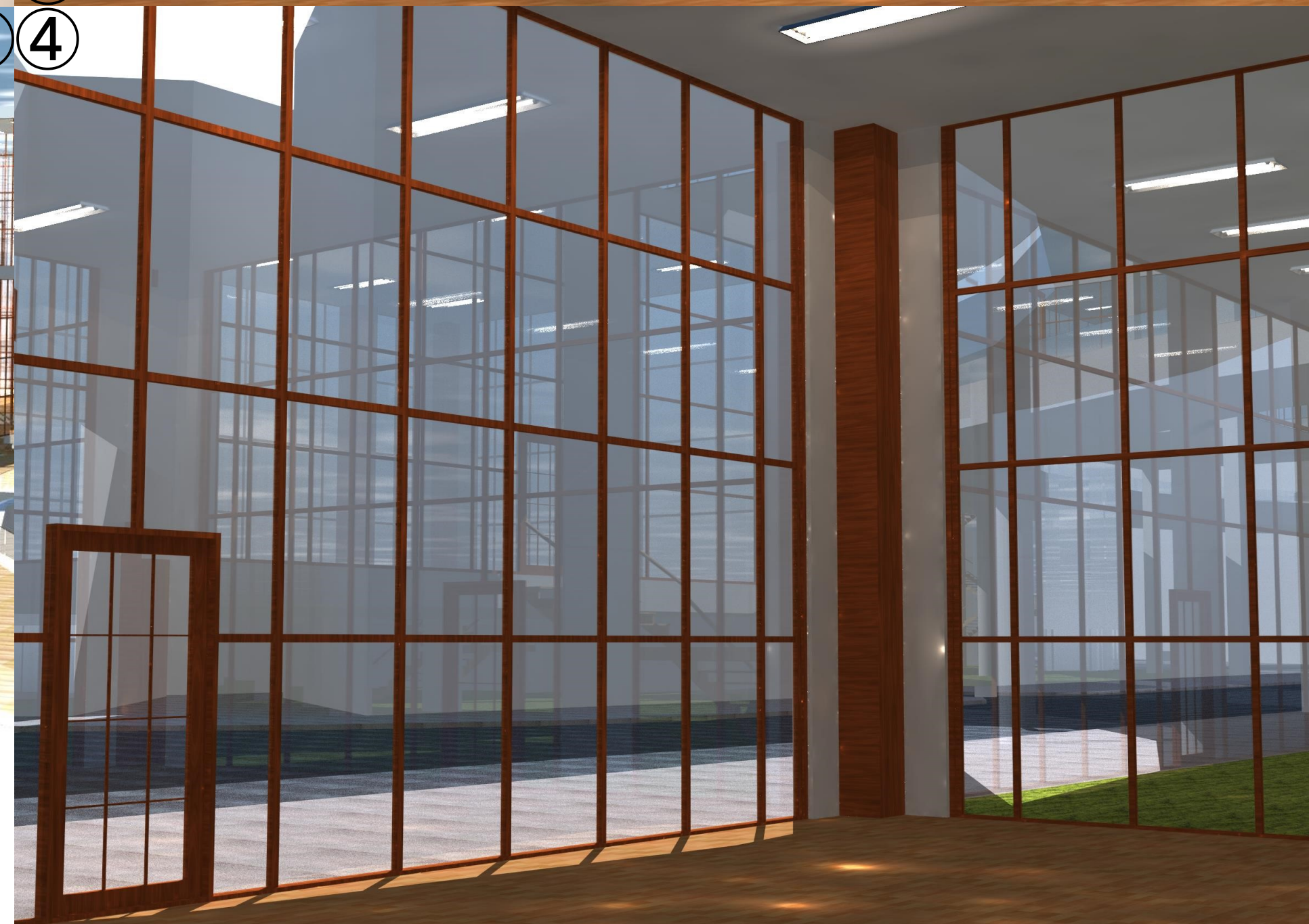
2) 運動の前後

- 前・運動前のストレッチ等の準備が行える空間
(広場、グリーンインフラなど)
- 後・運動後の休憩や集まっての飲食歓談を行える空間
(飲食店、カフェ、シャワー室など)

前スポーツ	スポーツ	後スポーツ
・スポーツ用品店を設置し、運動服などのファッションを楽しむのはもちろん、運動をより快適にできる。 ・飲料水などの食品店、飲食店を設置し体を気遣いながら運動ができる。 ・準備運動ができる空間を設置し、怪我をしないように運動ができる。	バスケ(3on3、スローイング)、バトミントン、卓球(対戦、スマッシュピンポン) 野球(ピッチング、トスバッティング)、サッカー(シュート、キックターゲット) オートテニス、ゴルフ(パターゴルフ、シュミレーションゴルフ、打ちっぱなし) ソフトバレー、アーチェリー、ボーリング、フットサル、スカッシュ、ファストドロウボクシング(パンチ、キック)、トランポリン、スラックライン、ドッジボール、スポーツ雪合戦、バランススクーター、ダブルサッカー、ローラースケート、ロデオビリヤード、ガンシューティング、フリスビー、スポーツチャンバラ、カラオケダーツ、アミューズメント(eスポーツなど)、ボルダリング、スケボー、パルクール障害物鬼ごっこなど	・集まって飲食歓談ができる店舗、カフェを設置することで身体を休めながら談笑や反省会などを行える。 ・シャワー室を設置することで運動後の汚れた体をスッキリさせることができる。 ・ストレッチができる空間を設置し、運動後の張った筋肉をほぐすことができる。

2. 敷地の建物、周辺の捉え方

- 1) スポーツの捉え方を運動だけでなく、前後の準備や休憩なども含める。
- 2) 空き店舗や駐車場を新しい店舗や広場、ピロティとする。
- 3) 既存建築を整理し、空いた敷地に上空のランニングルートと繋がるものとする。
- 4) 周辺地区にも繋がるランニングルートとし、活用可能な空間への動線とする。



都市スポーツインフラ

～地域の活性化計画～

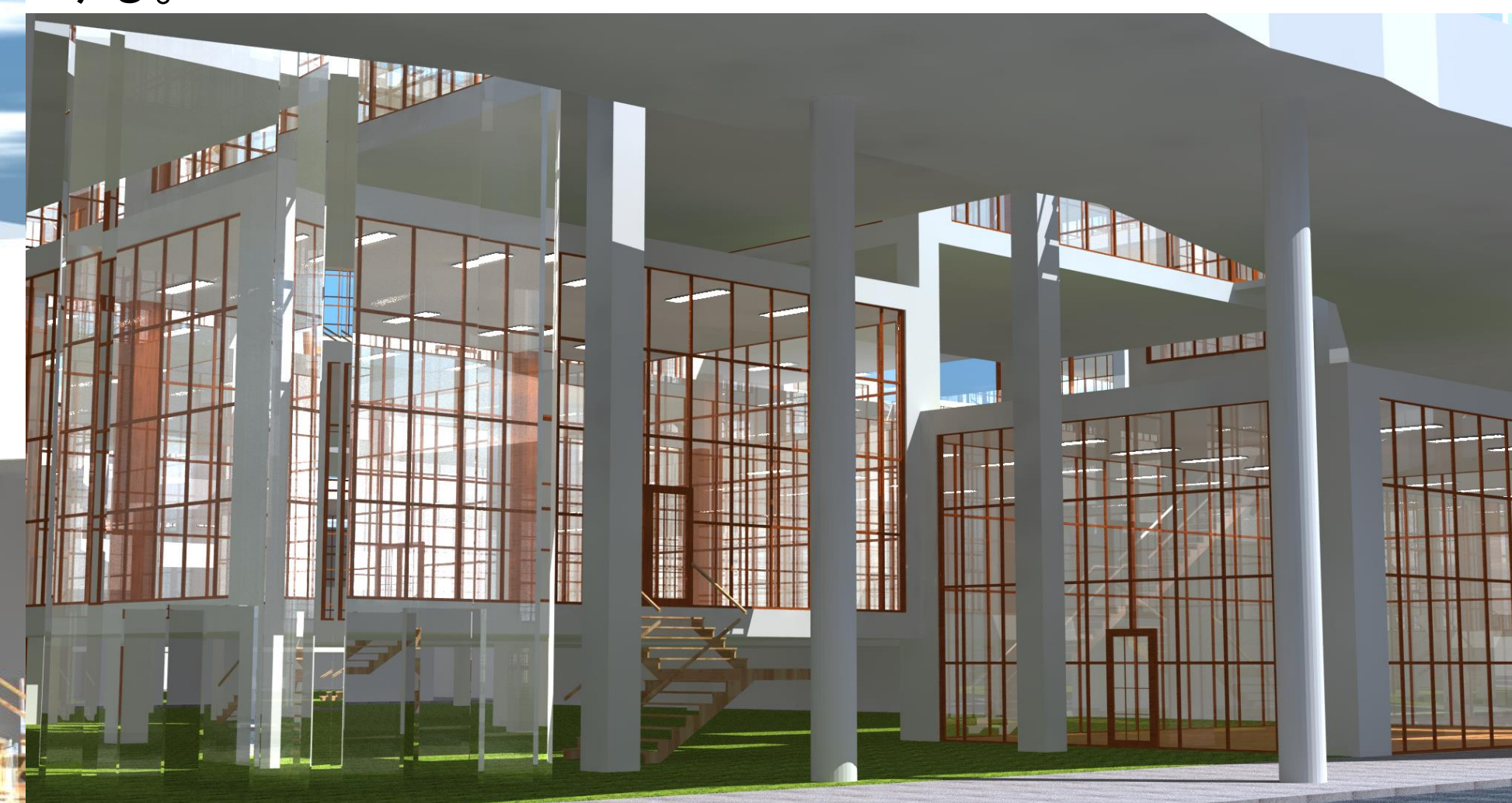
■ システム

1. スポーツによる都市の基本構造

上部構造と下部構造としてスポーツ空間の基本構造に分けて構築し、都市のインフラとして組み込む。下部構造は、ある程度既存の建物を残しつつ、スポーツ空間は既存建物を撤去した空間などを運動前後に使えるものにして分散配置させる。上部構造は、ランニングルートを動線にして基本形をもとに作った空間を配置し、敷地やその周辺へ行き来できる動線として新たな都市インフラとして配置する。

2. スポーツの形の基本形に対応する空間配置

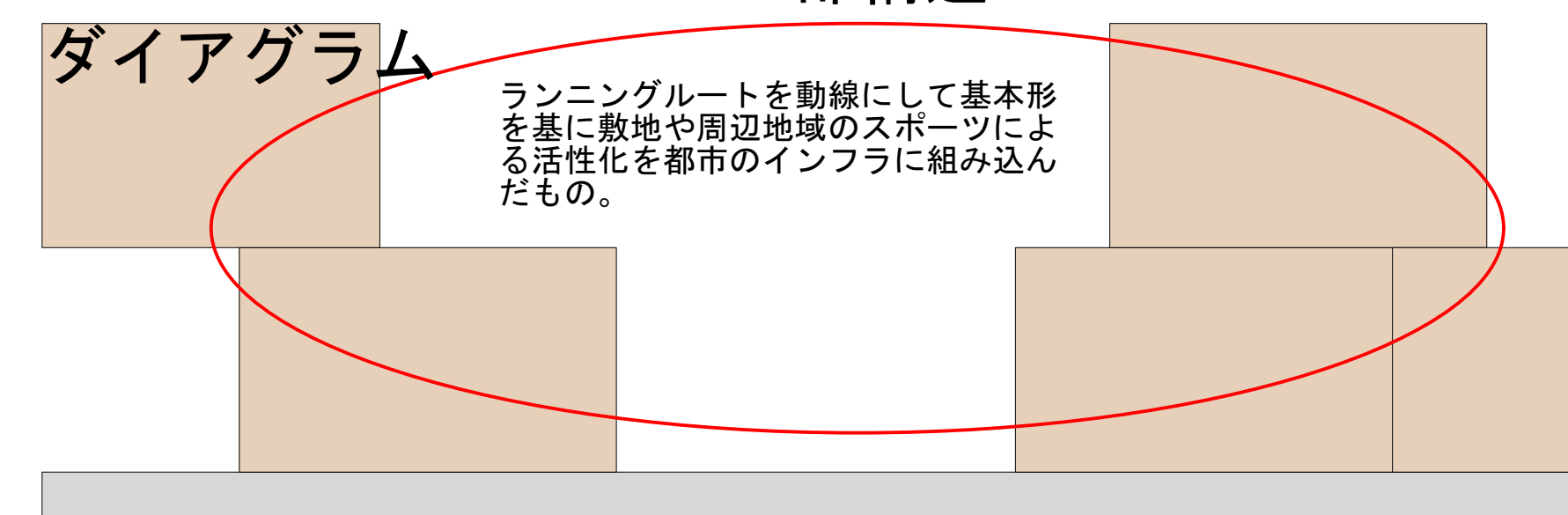
4.1の形の基本形に対応する空間を既存施設や新規建築物内に配置する。周辺の市民や利用者は、スポーツの利用前後を含めた新たなスポーツ空間を日常的に利用することができるようにする。さらに、利用者の交流を促進し、新たな都市づくりに繋げる。



上部構造

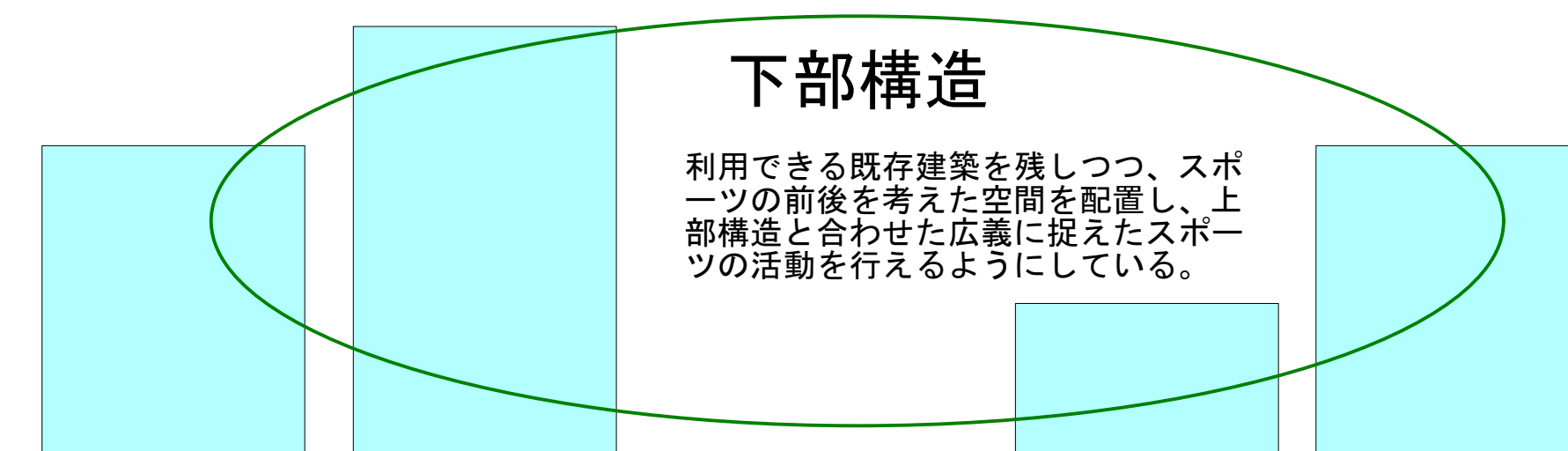
ダイアグラム

ランニングルートを動線にして基本形を基に敷地や周辺地域のスポーツによる活性化を都市のインフラに組み込んだもの。

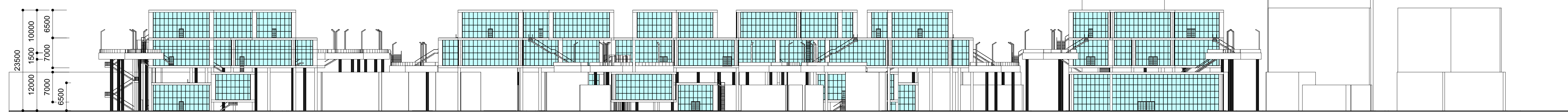


下部構造

利用できる既存建築を残しつつ、スポーツの前後を考えた空間を配置し、上部構造と合わせた広義に捉えたスポーツの活動を行えるようにしている。



A-A断面図 (S=1/500)



B-B断面図 (S=1/500)

都市スポーツインフラ

～地域の活性化計画～

1階平面図兼配置図 (S=1/500) と各所説明

既存の店舗など飲食店
・既存の飲食店などが連なっている場所で、これらは、スポーツ前後の後に当てはまり、運動後の休憩や栄養補給、談笑などを行える空間として利用できる。

凡例
■…屋内
■…広場の芝

1階ピロティー
・自分の確認した範囲で利用されていない既存建築や駐車場をピロティーとして大きな空間を配置した。
・さらにこの敷地では、駅まで直線的に通ることができるようにピロティーを配置することができたので動線として利用しやすく、また周りへのアクセスもしやすくなっている。

商店街に接している広場
・それなりに交通量があるがアーケードと周りの建物で少し暗く休息のとれる空間も少ないので、広場を隣接し休息のとれる空間とした。
加えて上空のランニングルートとのアクセスもできるようにした。

体育館
・大きな敷地を確保することができるので、3つの体育館を設置した。
・周辺での学校などの体育館の利用は意外と多いので地域な人たちも全力で運動ができ、3つあることで多くの人が順番に継続して利用できる大きさ、数となっている。

都市スポーツインフラ

～地域の活性化計画～

2階平面図兼配置図 (S=1/500) と各所説明

No6

1階建築の屋上
・形の基本形で設定した複数人の利用空間としての新規建築物は基本的に屋上は上がれるようになっており、休憩や準備運動などが行える場所となっている。

凡例
■…屋内
■…広場の芝
■…屋上の芝
■…再利用可能

既存の住宅やビル等
・今回の敷地では既存の住宅やビルが集まっている地域である。
・全体的に老朽化が進んでいると同時に空き家が増えている。

空き家、空き店舗等の再利用
・今回の計画に合わせたものとして指定している既存建物の再利用可能な階層は、スポーツウェア店や飲食店、スポーツ用具店等、スポーツ前後に当てはまる店舗に再利用し、現在実際に進行中のプロジェクトに沿ったものになっている。

休息スペース
・それぞれ利用されていない建物や敷地を整え、広場にした休息を目的としたスペース。
・各所あり、それぞれの場所の近隣での運動前後や周りからの休憩のための広場となっている。

都市スポーツインフラ

～地域の活性化計画～

3 階平面図兼配置図 (S=1/500) と各所説明

エレベーター

- ・ランニングルートの各所に設置している。
- ・高齢者や運動で疲れた人などが利用できるように配置している。

体育館の屋上

- ・体育館の屋上を開放し、動線や休息スペースとしている。
- ・上空の空間としてはかなり広い空間なのでスポーツの前後を行える空間となっている。

凡例

- …屋内
- …広場の芝
- …屋上の芝

主要階段

- ・ランニングルートへ繋がる大きな階段でこの計画敷地の端と真ん中に配置することでランニングのためだけでなく周辺地域への動線としても利用できるようにしている。

ランニングルート

- ・形の基本形で設定したランニング主体の道的な空間で既存建築の上に配置し、新たな都市インフラとしての空間の役割をしている。
- ・幅が7メートルあるためランニングで入れ違う時でもゆとりを持てる幅であり、円形であるため直角に曲がることなく、出会いがしらの衝突などの危険を気にせず走ることができる。

個人レベルの空間

- ・形の基本形で設定した個人レベルの空間をランニングルートに接している既存建築のその階層だけを変更して1・2人が集中して、筋トレやヨガなどを楽しめる空間として配置している。

個人

個人

個人

個人

個人

都市スポーツインフラ

～地域の活性化計画～

4 階平面図兼下配置図 (S=1/500) と各所説明

No8

分離したランニングルート
・ほかのランニングルートから分離して高さを少し上げた配置にしている。
・繋がっているランニングルートとまた違う空間として配置し、完全に円形になっているため周回が簡単になり高さが少し高いため上からの景色も楽しめるようにした。

小階段
・階段とは少し違い、隣り合っている近い階層への動線として配置している。
・ランニングルートからのものもありそれぞれの空間の動線としている。

凡例
■…屋内
■…広場の芝
■…屋上の芝

3 階屋上
・休息スペースや運動前後の空間だけでなく4 階の空間へ繋がる動線としての役割も果たしている。

階段
・主要階段と違い1・2・3 階のそれぞれの屋上に行くことができる階段になっている。
・それぞれに空間があるため、かなりの大きさと数があるため気を遣わずに休息や準備運動などが行える空間となっている。
・3 階の屋上へ繋がる階段は4 階へ行くための動線としての役割を持っている。

4 階運動空間
・計画する中での一番高所にある運動空間で、このような所での運動は中々出来ないものであるため、より緊張感やストレス発散ができると考えている。